

東レ株式会社

2021年3月期 第2四半期決算説明会(電話会議)
質疑応答要旨

日時:2020年11月6日
説明者:取締役 岡本 昌彦

本資料中の業績見通し及び事業計画についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。
本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。

<繊維>

Q. 主要製品別に下期の見通しについて教えて欲しい。

A. 衣料用途については、主力の秋冬物製品等の取扱高が拡大するとみている。

産業用途は、自動車生産台数が回復しており、エアバッグ用基布をはじめとする自動車関連用途の販売拡大を見込む。欧州の人工皮革は、足元は新型コロナウイルスの感染再拡大でやや不透明感はあるが、基本的には自動車市況が回復し、販売数量も回復していくとみている。PP スパンボンドは、上期は非常に堅調に推移したが、下期も堅調なマスク需要とそれに伴う衛材用途の需給改善等を受け、堅調に推移するとみている。

Q. 自動車向けの需要が回復傾向にあるのは認識している。衣料用途は、グローバルアパレルメーカーの動きを見ていると、大手顧客は比較的販売量が増えており、一部川下の在庫が不足しているという声も聞こえてくる。東レは新型コロナウイルスの影響で販売は厳しく、今年度一杯在庫調整が継続するという見方に変化はあるか？

A. 衣料用途については、一部回復の兆しがあるものの、全般的には、カジュアル・スポーツ衣料は 20 年秋冬物の追加受注および 21 年春夏物の受注共に振るわない。

<機能化成品>

Q. 機能化成品の 1Q から 2Q、上期から下期にかけての動きについて教えて欲しい。

A. 1Q から 2Q は、樹脂事業は、マレーシアの樹脂子会社が中国の需要回復に伴い、販売が拡大し、スプレッドも拡大した。エンジニアリングプラスチックも、自動車の需要が回復傾向。フィルム事業は、ディスプレイ用途で透明光学フィルムが有機 EL 向けおよび無線充電・5G 関連部材の需要拡大により堅調に推移した。BSF も車載用途で新型コロナウイルス影響から回復基調にある。MLCC 離型フィルムは、中国向けスマートフォン需要が回復した。電子情報材料事業は、有機 EL 関連材料は、スマートフォン用途・TV 用途で有機 EL パネルの需要が拡大した。高機能回路材料も需要が拡大した。商事子会社は、1Q に計上した貸倒引当金の影響 25 億円が 2Q になくなった。

上期から下期は、樹脂事業は、自動車用途を中心に需要の回復を見込む。ケミカル事業は、基礎原料市況の回復を見込む。フィルム事業は、MLCC 離型フィルムがスマートフォンや基地局関連用途、バッテリーセパレータフィルムが車載用途で需要の回復を見込む。電子情報材料事業は、有機EL関連材料、半導体・電子部品材料等で拡販を図る。全般的に収益の拡大を見込んでおり、1Q に子会社で計上した貸倒引当金 25 億円の影響が下期はなくなる。

Q. バッテリーセパレータフィルムの 2Q の状況と、下期の見通しについて教えて欲しい。

A. 車載用途は 2Q から回復基調となり、1Q から 2Q にかけては数量が増加した。上期から下期にかけても、EV市場の回復が下期に更に進むとみており、上期比数量が増加すると見込んでいる。比率は小さいが、民生用途は、新型コロナウイルスの特需で巣ごもり需要の増加もあり、数量は 1Q から堅調に推移していたが、2Q も堅調な水準で推移した。下期も概ね上期並の動きをするとみている。

<炭素繊維複合材料>

Q. 下期の事業利益の見通しが▲67 億円と、上期に比べて大幅に悪化する要因は？

A. 下期には、在庫水準の適正化を図る目的で上期に比べて稼働調整を強化するため、その

分のコストアップが効いてくる。また、AN 価格が上期に比べると下期上昇する方向にあるので、一般産業用途で多少原料価格アップの影響を受けると見込んでいる。更に、航空機用途が減っているので、ミックスの悪化も影響している。

Q. 炭素繊維複合材料事業で、生産体制再構築の現在の状況は？

A. 生産体制再構築の進捗状況であるが、レギュラートウは新型コロナウイルスの影響により航空機用途の需要が縮小し、当社の稼働率も低下している。短期的には、設備投資の抑制と徹底的な固定費削減によって体質強化を図ると共に、拡大が見込まれる産業用途の需要を取り込み、当社の強みであるグローバル生産設備のフル稼働を目指す。ラージトウは、引き続き風力発電翼用途の拡大が見込まれるため、需要に応じた投資をタイムリーに実施していく予定である。

サウスカロライナ州の稼働は、現時点で稼働再開が 22 年以降になると見ている。ワシントン州の工場、アラバマ州の工場は、稼働率を落としながら操業を継続しており、年末に範囲を拡大した休止を予定している。

Q. アメリカでの生産体制について、生産設備除却の可能性は？

A. 炭素繊維複合材料の航空宇宙用途の需要は、中長期的には拡大すると見ている。従って、生産設備を除却することは現時点では考えていない。産業用途等、現状の設備で生産可能なものを生産・拡販していき、航空機の需要が戻る際に、また航空機用途の生産にシフトすることを考えている。